

〔2015年度会計報告〕

〈収入の部〉

項目	決算額 (円)	内訳
会員年会費	3,753,000	2014年度以前分：27名 2015年度分：502名
事業収入	373,902	研修会事業収益
寄付金	10,000	
雑収入など	42,378	学会誌販売、受取利息など
前期繰越収支差額	9,577,905	
計	13,757,185	

〈支出の部〉

事業費	2,225,439	学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など
管理費	1,114,524	会議費、通信費、人件費など
計	3,339,963	

収入 13,757,185

支出 3,339,963

収支 10,417,222



第13回小児がん看護研修会

教育委員会では、今年度も8月に小児がん看護研修会を開催いたします。昨年度に引き続き「意思決定を支える看護」をテーマに行います。今回は、思春期患者さんに焦点を当てます。思春期の特徴を踏まえた意思決定支援について、高知県立大学の有田直子さん（小児看護専門看護師）よりお話し頂く予定です。グループワークも行いますので、日頃の実践場面で経験していることや迷っていること、などを共有し、子どもへの向き合い方へのヒントを得られる機会になればと考えております。ぜひたくさんの方々のご参加を、そして意見交換できることを楽しみにしております。詳しいプログラムは同封したチラシをご参照ください。

日時：2016年8月20日（土） 9:30-16:30

場所：国立成育医療研究センター講堂

テーマ：思春期患者の意思決定を支える

小児がん看護学会教育委員会

「英国小児ホスピスの現場から」フォーラムのお知らせ

認定特定非営利活動法人ファミリーハウスより、フォーラムのお知らせが届きました。学会のホームページにリンクを貼りましたので、そちらで確認してください。

英国小児ホスピスの現場から  
～英国運営者と利用経験者、2つの立場から～

日時：2016年8月7日（日） 13:00～16:30（会場 12:00）  
場所：イノホール&カンファレンスセンター RoomA

SIOP2016

今年の国際小児腫瘍学会（SIOP2012）は、ダブリン（アイルランド）にて10月19日～22日の日程で開催されます。  
<http://www.siop2016.kenes.com>

10月17日（月）に、Lady's Children's Hospitalでの研修を計画しました。18日（火）の研修場所を現在検討中です。グロリアツーリストにお願いして、日本語の通訳に同行してもらって病院研修を行います。学会のみのコースは、7日間で約22万円、病院研修を含むコースは10日間で約39万円の予定です。病院研究ツアーについては、グロリアツーリスト渡邊さん（[t-watanabe@gloria-t.co.jp](mailto:t-watanabe@gloria-t.co.jp)）に連絡をしてください。学会参加、研修にご興味のある方、ご要望のある方は、担当までご連絡下さい。（淑徳大学 小川：[junogawa@soc.shukutoku.ac.jp](mailto:junogawa@soc.shukutoku.ac.jp)）

〔小児がん看護学会誌編集委員会より〕

本会誌は、毎年9月に発行を行っております。2月末までに投稿されたものはその年の9月に掲載予定です。それ以降に投稿されたものは翌年に掲載予定となります。但し、年間を通じて投稿を受け付けておりますので、より多くの方に日々研鑽されている成果を是非ご発表下さい。日本小児がん看護学会誌投稿規定（平成22年度7月24日施行）はHPでご覧頂けます。

学会HP：<http://www.jspon.com>

日本小児がん看護研究会ニュースレター担当

淑徳大学看護学部 小川純子

東海大学健康科学部 井上玲子

筑波大学付属病院 田村恵美

〔連絡先〕 〒260-8703 千葉市中央区仁戸名町 673

E-mail: [junogawa@soc.shukutoku.ac.jp](mailto:junogawa@soc.shukutoku.ac.jp)



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing  
— JSPON —  
News Letter Vol.23



平成28年4月に起こった熊本県を震源とする地震によりお亡くなりになられた方々そのご遺族の皆様に対し謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。余震が多く、熊本の子ども達や住民の皆様は今も尚、不安な日々を過ごしていることとお察しします。一日も早い復旧を果たされることをお祈りすると同時に、被災された皆様が平穏な日々を取り戻せるようお祈り申し上げます。

熊本や九州地方にいらっしゃる会員の方で、本学会でお手伝いできる情報をおもちの方がいらっしゃいましたら、ニュースレター担当までご連絡下さい。是非ご協力させて頂きたいとおもいます。

日本小児がん看護学会は14年目に入りました。昨年末には、会員の学会発表・論文投稿に関するニーズと実態についての調査へのご協力をありがとうございました。これからも社会や医療の発展を見据えて、会員の皆様や小児がんの子ども・家族、さらには社会に貢献できる様に活動を続けていきたいと思っております。

今回のニュースレターでは、第14回日本小児がん看護学会、第13回小児がん看護研修会などのご案内に加えて、第13回学会の報告をさせて頂きます。第14回学会の演題締切は6月30日（木）です。演題登録には会員番号が必要です。詳細については、学会のホームページにて確認してください。

(<http://jspho58.umin.jp/index.html>)



第14回 日本小児がん看護学会のご案内

第14回日本小児がん看護学会を、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会とともに、東京の品川で開催させていただくことになりました。今回の学会テーマは「小児がんの子どもと家族の力をささえる」といたしました。がん対策基本法が制定され、2013年には「小児がん拠点病院」が14施設稼働し小児がんの診療体制は充実してまいりました。小児がんの子どもと家族を支えるケアや療養

環境、地域連携も看護師の役割として重要となっています。今回は基本に戻り、発症初期における子どもや家族との信頼関係を構築し、子どもと家族の力をささえ過酷な長期にわたる療養生活の質の向上を求めて企画してまいりました。

特別講演には、ノンフィクション作家の柳田邦男先生に絵本からの学びをひも解いていただきます。子どもの権利条約はポーランドの小児科医コルチャック先生の精神を受け継いでいます。柳田先生はこのコルチャック先生の絵本の翻訳も手掛けておられ、多くの子どもたちとの関わりをされています。

教育講演はイギリスのFaith Gibson先生をお招きし、子どもと家族のエンパワーメントをどのように引き出すか実践での研究成果を基にお話しいただき、藤原千恵子先生には子どもと家族のレジリエンスについて、具体的に分かりやすくお話しいただきます。また医師との合同シンポでは「笑顔のたね」をテーマに子どもや家族に笑顔を提供するための企画などもしています。

多くの皆様に師走の品川にお越しいただき、品川の味と隣接の水族館でお楽しみいただきながら、研鑽と情報交換の場にしていただければ幸いです。皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

第14回日本小児がん看護学会会長 石川福江

第14回日本小児がん看護学会学術集会  
-小児がんの子どもと家族の力を支える-

開催期間：2018年12月15日（木）～  
12月17日（土）

場所：品川プリンスホテル  
演題募集：2018年5月11日（水）～6月30日（木）  
参加：事前登録と当日受付。詳細については、学術集会ホームページで確認してください。  
日本小児がん看護学会に参加登録すれば、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会の会場にも参加可能です。



第13回 日本小児がん看護学会を終えて

第13回日本小児がん看護学会学術集会 会長  
石川 眞里子  
山梨大学大学院総合研究部 成育看護学講座 教授

第13回日本小児がん看護学会学術集会は第57回日本小児血液・がん学会との合同開催、および第20回がんの子どもを守る会公開シンポジウムの共同開催として、平成27年11月27日(金)～29日(日)に甲府の常磐ホテル・富士屋ホテルにて開催させていただきました。

学術集会には、全国から1300人近くの会員の皆様にお集まりいただき、各会場で活発な討論で熱気にあふれ、盛会となりましたことに感謝申し上げます。

第57回日本小児血液・がん学会学術集会の杉田完爾会長による「全ての垣根を無くして、子ども達のために」のテーマと連動して、「子どもたちの生きる場を繋げる病院・学校・地域の連携」といたしました。垣根を取り払うには連携が重要であり、子どもの生きる力を支えるには多職種が「子どもの意思決定のプロセスを支えること」を共通認識とした上で、各々の役割を全うすることが基本と考えるからです。これは多職種医療者合同シンポジウムで取り上げ、全国の小児がん専門医療施設の医師や看護師の方々の意見交換は示唆を得るものとなりました。

内田伸子先生 による「子どもの創造的想像力を育む ～長期入院児の心理と支援をめぐって～」の特別講演では、子どもの想像力を育むには五感を使った体験の大切さや、病児に「生きる力」を与えるには「養育モデル」で寄り添うことの大切さを学びました。また副島賢和先生に「小児がんを抱えた子どもたちが復学する在籍校と繋がるために」教育講演として、子どもが学校に戻るためのレシピの必要性や復学のための手立ての工夫を具体的に教えていただきました。

看護シンポジウムでも「小児がんの子ども地域・成人移行に向けた支援 一生きる力を育むエンパワメント」について議論を深めました。「社会的な繋がり担保+生活の自己コントロール=エンパワメント」へ導く支援を検討する必要性から、ピアサポートや情報サイトなどの実践報告等の基礎と臨床の各々の立場からのご発言は視野を広げるものでした。



森美智子監事と内田伸子先生

看護ワークショップでは、「がん化学療法を受ける子どもの皮膚障害への看護」として、IVHや臀部皮膚炎に対して根拠のあるスキンケアがいかにか快適かを実際に見ていただきました。分子標的薬による様々なスキントラブルは子どもたちに苦痛を与えるので、小児科看護と外科看護の皮膚排泄ケア認定看護師と共同すればケアを向上できると確信しました。

看護フォーラムでは、「外科・ストーマ手術を受けたAYA世代にはどのようなフォローアップとサポートが必要か」を取り上げ、AYA世代経験者のネットワークを広げる可能性や、サポートする医療者の役割について考える機会となりました。

学術交流セミナーでは、「復学支援：実践と研究の対話」として、論文から実践のヒントを得て臨床課題に向き合うことが企画され、地元養護教諭や地元校担任教諭も交えた討論は、地元の活動状況を理解でき、課題が見えることに繋がりました。

演題発表では、きょうだい支援、思春期・青年期の看護、子ども・家族の意思決定、家族ケア、復学支援、退院後ケア・長期フォローアップ、グリーフケア、エンドオブライフケア等のテーマで各会場において活発な討論が展開され、明日からの看護実践に活かせるものと期待しています。

最後に、学会運営においては会場が二箇所であったことでご不便をおかけしたり、看護プログラムが過密になったりと至らないことも数々あったと思いますが、学生たちの笑顔の対応にご容赦いただきますようお願いして、ご協力いただきましたことを心より御礼申し上げます。



CNS のまめ知識 -ビーズオブカレッジ-

小児がんや重い病気と闘う子どもたちが、自らの回復力や抵抗力を高められるように考えられた社会心理的介入法にビーズ・オブ・カレッジ® (Beads of Courage=勇気のビーズ) プログラムがあります。治療毎に決められた様々な色のビーズがあり、参加者は毎日の治療をビーズ日記に記録し、トレーニングを受けビーズ大使に認定された医療者からビーズを受け取り紐に通していきます。「勲章」であるビーズをつなぐことで、勇気や希望を実感できる効果があります。日本では、2009年から実施され、私の所属施設は2015年9月に導入しました。導入後の子どもや家族、医療者への効果についてお伝えします(許可を得ています)。

子どもは、「輸血は赤。怖い検査を頑張ったからがんばったねビーズ」「ビーズをつけるとお薬を吐かない。」「入院した時、お母さん泣いていたね。お母さんには笑っていて欲しい」「こんな長く重くなった。いっぱい頑張った。」等話し、外来受診時もビーズ日誌を持参しています。形あるビーズを介在して、子どもが自らの体験を語りやすくなり、精神的支えになっていると感じています。

家族は、「自分の日記は見せられない。ビーズ日記は子どもに見せて説明できます」「子どもの気持ちがわかりました。」と語っています。小児がんで亡くなったAさんの兄は、母とともにビーズをつなぎ「弟の明るい面しか見えていなかった。自分も成長し治療の意味が理解できるので、振り返りビーズをつなぐことで、弟の大変な闘病生活を知り生きてきた意味を考え、より弟という存在に近づいている感じがします」と語り、グリーフケアにもつながっています。

医療者は、「子どもの思いを聴いているつもりが、大人目線だったと気づきました。子どもは語れるんですよ。」と語り、子どもや家族の語りを共有することで理解が深まり、プログラムの重要性を感じています。歯科医師は受診時に「ビーズ頂戴」と言われたことがきっかけでビーズ大使となりました。現在、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、保育士などがビーズ大使として同じ目標に向かい取り組んでいます。

このプログラムに必要な素材およびトレーニングは、特定非営利法人シャイン・オン！キッズから無償で提供され、慢性期疾患の子どもたちへの活動も広がりつつあります。より多くの皆さんに知っていただく機会となれば幸いです。

高知医療センター 小児看護専門看護師 小児フロア看護科長 三浦由紀子

《2016年度委員会等組織体制》

◎印：委員長/事務局長

将来計画委員会 ◎内田雅代 石川福江 井上玲子

上別府圭子 塩飽仁 田村恵美

野中淳子 前田留美

教育委員会 ◎竹之内直子 小川純子 釘持瞳

込山洋美 荒井由美子 柴田映子

編集委員会 ◎上別府圭子 前田留美

岩崎美和 小林京子 佐藤伊織

東樹京子 古谷佳由里

国際交流委員会 ◎小川純子 平田美佳 山下早苗

ケア検討委員会 ◎小原美江 竹之内直子 平田美佳

学術検討委員会 ◎上別府圭子 内田雅代 小原美江

広報委員会 ◎塩飽仁 井上玲子 小川純子

田村恵美 前田留美

会計 石川福江 富岡晶子

庶務 野中淳子

事務局 ◎岡澄子 米山雅子 小柴梨恵

合同学会プログラム委員 石川福江 内田雅代

小川純子 小原美江

第14回学会長(2016)：

石川福江(前 杏林大学保健学部看護学科)

第15回学会長(2017)：

薬師神裕子(愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻)

＜日本小児がん看護学会広報委員会より＞

ニュースレターは本号をもちまして会員の皆さまへの紙媒体での送付を終了致します。

今後は学会ホームページにてバックナンバーを含め配信する予定です。